

スフィズム (前半)

5.0

明:
スフィズムのイスラミックでない部分について。第一部では、スフィズムの定とその起源、また神、言者ムハンマド、天国と地への信仰において、イスラミックでない部分についてしていきます。

目:[事代におけるイスラムから派生した宗派](#)

より: アブドッラフマンムラド(2012 IslamReligion.

日 12 Mar 2012

集日 12 Mar 2012

序



テレビのドキュメンタリ番組であれ、インターネットのウェブサイトであれ、多くの人々は「スフィ」、または「スフィズム」について聞いたことがあるのではないでしょう

か。テレビ番組で放送されたり、トーク番組で言及されたり、有名人たちがスフィ教に味を示したりと、いまではどのようなサイトでも「スフィ」と打ちむだけで、溢れんばかりの画や写真の数々をつけ出すことができます。サイバースペースにおいては、スフィ神秘主義者や老たちが、き渡るメロディを背に踊る写真や画を撮ることが出来ます。その中には、スフィ老がナイフで自らの頬を激しく突付いたり、拷問的な苦行をしたりする不快なものも、一般的に存在します。イスラームに味のある人々がこのようなものをたら、イスラームとムスリムについて解してしまうかもしれません。というのも西洋的な意味での「スフィ」や「スフィズム」は、イスラームやムスリムと同様であるからです。

疑念として浮かび上がるのは、彼らが本当にムスリムで、イスラームを踏んでいるのか、というものでしょう。入手可能なサイト、記事、本などは多くが存在しますが、早まった結論を出す前に、それらの文章のほとんどではスフィズムについての感情的な論議がなされていないことを指摘しなければなりません。そしてこのことは人に、それらには偏向があるのではないかと、という疑念を抱かせるに足りません。この考えでは、「スフィズム」について出来るだけ客観的であるよう、またいかなる偏見や先入見にもとらわれない文章であるよう、見ます。

スフィたちは少数ながらも、ムスリム国かどうかにかかわらず、多くの国々に居住しています。しかし、スフィズムは一つのグループと思われがちですが、中にはいくつもの教団（タリカ）に分かれています。その各々は信条と実践において異なります。教団には大きなものもあれば、その土地と共に消え去ったものもあります。存在する教団には、ティジャニ教、ナクシュバンディ教、カディリ教、シャズィリ教などがあります。

スフィズムの起源

スフィの教えはその最初期において、人によるイスラームの精神的な面を、より重点を置くべき必要性を説くものでした。しかしながらそのと共に、高いスフィ教の老たちがイスラームとは異なる実践法をめぐらし、それが追従者たちによって受け入れられるようになりました。そういった実践法にはダンス、音楽の演奏、さらにはハシシ（マリファナ）の吸引すらも含まれていました。

学者イブン アル=ジャウズィ は、その著「タルビ ス イブリ ス」で、彼らによって使われる名称の起源について述べています。「彼らがこの名で呼ばれるのは、カアバのまわりでの崇 行 に人生を捧げたスファ という名の人物にちなんでいます。」

これによれば、彼の模 を望んだ人々が自らを、「ス フィ」と名 り始めたことになりま

す。

またイブン アル=ジャウズィ は の理由にも言及しています。「彼らは羊毛の衣服を身に付けていました。」羊毛はアラビア で「ス フ」であり、その 代に羊毛は禁欲主 者の印で、衣服として最も安上がりなため、ざらざらした肌触りでした。それゆえ禁欲主 者のシンボルとなっていました。いずれにせよ、ス フィ という言 は 言者ムハンマドの代には存在しなかったものであり、ヒジュラ 200年（ 言者によるマッカからマディ ナへの移住の年から200年 ）以降に最初に使われ出した言 なのです。

著名な学者であるイブン タイミ ヤは、ス フィズムの 祥はイラクのバスラであると言及しています。そこでは、一部の人々が崇 における 激主 に り、他の地域でも られることのなかったような方法で俗世を れたとされています。[1](#)

ス フィズムとは？

ス フィズムとは、 、 遁、妙技、魂の抑制、唱歌、踊りなどから成り立つ、一 の概念と践のことです。それはギリシャ哲学、ゾロアスタ 教、 教、ヒンズ 教、またイスラ ムを含む、多くの なる宗教および哲学が混合されたものです。また、しばしばそれは、ス フィ たち自身や 洋学者らによって、「イスラ ム神秘主 」と形容されます。そしてそれはイスラ ム全体、またはその一部が、 意味な 式から成り立つ教 主的な宗教であるという 解を与えるためのものなのです。ス フィズム（タサウフ）の本 は、ムスリムが信仰すべきものに相反しています。このことはス フィ の一般的信条の 明として 述べられます。

ムスリムであることの特

スフィによって非常に崇敬されているマンスルアル=ハッラジは、このように言っています。「私のするかれ（神）こそ、私なのである。」そしてこうします。「私のするかれは、私である。われわれは一つの身体に共生する二つの魂である。あなたが私をるのであれば、そこにかれをるのであり、あなたがかれをるのであれば、そこに私をるのである。」[3](#)

スフィたちの崇敬を受けるの人物、ムヒユッディンイブンアラビは、奇怪な主をしたことで知られています。「私の衣服の下にいる御方こそは、神である。」「しもべとは主であり、主とはしもべなのである。」[4](#)

上の信条は、格な一神の信仰をかかげるムスリムの信条とは真っ向から反するものです。これらのスフィ的教は、キリスト教やヒンズ教の信条とそうかけられたものではありません。その著「スフィ思想」において、S.R.シャルダはこう述べています。「ティムル朝以前の代におけるスフィ文学は、その思想に大きな化があることを示しています。それはまさに、神の思想なのです。インドの中枢における的ムスリムによる支配が変わると、ティムルによる侵攻の影から、スフィズムは的ムスリムによる率から外れ、ヒンズ教の人による非常にな影を受けはじめました。スフィはヴィシュヌベダント学派から一元、妻的献身、またバクティやヨガの践などをしたのです。当、スフィたちのにおけるベダント的神の人は点にしていました。」

神の言者への信仰

ムスリムは、言者ムハンマドが最の言者であり、神の使徒であると信じます。彼に神性はなく、崇の象でもありませんが、彼はわれ、そして神の崇は彼によって可された方法のみによって行わなければなりません。

々のスフィ教には、言者ムハンマドにした多々の信仰が存在しています。その中には、彼がスフィ老の持つレベルの知にして知であったといった主などが含まれます。スフィのシャイフであるアル=ブスタミは、このような言をしています。「我々は知の海に浸かっているが、言者使徒はその岸に立っていたのである。」

また、他のスフィたちは、あるの神性を言者に寄与させ、すべてのものは、言者ムハンマドの「光」から造されたのだとします。さらに、一部では彼こそが最初の造であり、彼は今、神の玉座についているのであるという主すら存在します。これはイブンアラビ、および彼にくスフィたちの信条でもあります。

天国と地の信仰

要すれば、ムスリムは天国と地がたった今存在しており、双方はの住であると信じています。地は罪深い人々がを受ける所であり、天国は敬虔な人々がを受ける所です。

一般的にスフィは、神に天国をおいしてはいけないと申し、さらにはワリ（守者）もそれを求めてはならないとします。なぜなら、それは人の知性の欠如であるとするからです。彼らにとって天国は非的な意味合いを持ち、そこは神による不可の知を授かり、神との深い情に浸る所であるとしています。

また、地にするスフィの信条としては、それから逃げてはならない、とするものです。彼らによると、真のスフィは炎を怖れてはならず、一部ではアブヤズィドアル＝ブスタミが主するように、スフィ老が炎に唾を吐くと、それはたちまち消されるとさえ信じるのです。

Footnotes:

1 アル＝ファタワ（11/6）

2 造主と造物のには、本性ともに、全くの似性も存在しません。

3 アル＝ハッラジ著、アッ＝タワシィン。

4 アル＝ファトゥハトウル＝マッキヤ&アル＝ファトゥハト。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/1388>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。